

センター夏まつり 2012

去る8月25日（土）に、霞ヶ浦水質浄化強調月間（海の日～9月1日）のメインイベント「霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2012」を開催しました。

昨年とは打って変わり、夏真っ盛りというような天候で、当日の最高気温は34.4℃（平年差+4.1℃）、またその気温以上に強烈な日射しの中での開催となりましたが、お陰様で県内外から5,500名のお客様にご来場いただきました。

内容は、環境保全団体等による出展・クイズラリー・投網体験教室・アクリルたわし教室などのお馴染みのイベントに加え、新たにセンター研究室の催事を出展するなど、盛況のうちに終えることができました。

また、昨年に引き続きパートナーブースが出展されました。屋外でのテント出展という大変過酷な状況でありましたが、多くの方にご来場頂き、大変盛況であったと伺っております。

なお、当日の運営に当たってはパートナー各位のご協力を得たところですが、今回は事前の準備作業についてもご協力をお願いしたところ、パートナー5名の協力を得ることができ、8月21日（火）に展望台付近の清掃活動を行いました。暑い中での作業となりましたが、当日の来場者を迎えるのにふさわしい展望台周りとすることができました。

センター夏まつり2012は、パートナーの皆様のご協力を得て盛況のうちに終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。（センター：高橋）



おもしろ科学教室



アクリルたわし教室



読み聞かせ



霞ヶ浦クイズラリー



パートナーブース



展望台清掃作業

センター夏まつり 2012 パートナーブース大盛況！

センター恒例の「夏まつり」が8月25日に開催されました。今年もセンター及び関係市民活動団体のご協力を頂き、パートナー企画部会プロジェクトとして、パートナーブースへの出展をしました。出展にあたり、パートナー企画部会メンバーによる「夏まつりパートナーブース」実行委員会を6月に立ち上げ、定期的に実行委員会を開催（計6回）し、企画・運営について検討してきました。

出展のねらいとしては、センターにおける各グループのパートナー活動を広く知ってもらうことを主に、PRを兼ねて各グループの活動紹介パネルを作成するとともに、各種出し物を企画しました。

具体的な出し物として、①各グループ活動紹介パネルから出題した「パートナークイズ」、②将来の美しい霞ヶ浦について、子どもたちにイメージしてもらい、「紙粘土」を使ったジオラマづくり、③霞ヶ浦にいる生き物を「折り紙」でつくるなどです。

当日は、猛暑にもかかわらず大勢の来場者（141名）に喜んで頂きました。また、パートナー活動についても、「色々なグループがあるんだね」、「いろんな活動してるんだね」とか、「霞ヶ浦を昔みたいにきれいにしたいね」など、来場者の生の声を聞くことができ、流れる汗が涼しく感じられました。

今年で3回目となったパートナーブースへの出展ですが、来年も来場者の皆様に喜んで頂けるよう、パートナー全員で知恵を出し合い頑張りたいと思います。
(パートナー企画部会：尾形)



イベント・記録Gからのお知らせ

1. 霞ヶ浦入門講座の資料整理が終了しました

今回 霞ヶ浦入門講座の活動報告資料の整理を行いました。

資料はA4ファイル2冊に活動報告が纏められており、パートナー室の棚に置きましたので、ご覧ください。

2. 第4回環境フォトコンテストのご案内

イベント・記録Gの自主活動としての「環境フォトコンテスト」を昨年に引き続き、今年度も実施いたしますので ご案内申し上げます。

「第4回フォトコンテスト」は、テーマを「霞ヶ浦、今日の姿」とし 霞ヶ浦の良い面や改善したい面等、霞ヶ浦の今日の伝える写真を、撮影者の思いを込めたコメントと共に応募していただきたくご案内申し上げます。

- ・写真のテーマ：「霞ヶ浦、今日の姿」
- ・応募期間：平成24年11月1日（木）～11月15日（木）
- ・問合せ先：イベント・記録G（目次）まで

（コンテストの応募要領をパートナー室に掲示しておりますのでご覧ください）

(イベント・記録G：目次)

環境活動市民団体との見学・交流会の予告

平成22年から、パートナー企画部会としてセンターの支援を得ながらパートナー活動全体に関わる各種企画をプロジェクトとして立ち上げ自主的に企画・運営しています。

その中で、パートナーの自己啓発（知識の習得及びスキルアップ）及び各団体との交流を通して、今後のパートナー活動に活かすことを趣旨に環境活動市民団体との見学・交流会を企画しました。

企画概要として、県北の太子町で「サシバの住める里山づくり」を目指し、田んぼを生きものの楽園にする活動を行っている市民団体「サシバの里山づくり」の活動現場見学・交流を10月21日に実施する予定です。（この団体には、パートナー仲間の宮田さんが活動しております）

詳細は、後日案内でお知らせしますが、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

ちなみに、「サシバ」とは、里山のタカ的一种で4月中旬から5月上旬にかけて、南から渡って来る「田んぼのある里山」をすみかとするタカだそうです。

(パートナー企画部会：尾形)

第1回パートナー霞ヶ浦講座

今年度のパートナー霞ヶ浦講座は計4回行われますが、いずれも現地講座とし、その第1回講座が8月1日に開催されました。猛暑の中、総勢19名が参加され、神栖市に位置する茨城県鹿島下水道事務所の風力発電設備と特定公共下水道の処理施設を見学しましたので状況を報告致します。

1) 風力発電設備

最近では化石燃料や原子力エネルギーに代わって再生可能エネルギーの需要が高まっていますが、種々の再生可能エネルギーのうちで風力発電は多くの国で急速に伸びています。我々はメディアではよく紹介されて知っている風力発電設備ですが実際に見るのは初めてでした。波崎海岸沿いには約10基が纏まって設置され、またしばらく行くと同様に設置されており、立ち並ぶ風力発電設備は壮観です。率直に感じたのは大きい、そして風任せにゆっくり廻っているのが最新設備にしては何とも言えずのんびりした感じがしました。

神栖市には風力発電設備が合計34基設置されています。そのうちの1基が平成24年鹿島下水道事務所内に設置され、発電された電力はすべて処理施設に使われています。定格出力2000kw、電圧1400v、50Hzの3相交流電気を発電します。風力発電設備は風の力で羽根を回して発電する設備で、80mタワーの上に発電機と40mのブレード(羽根)3枚からなっています。風車の方式にはブレードが風車の風下側にあるダウンウィンドロータ方式と風上側にあるアップウィンドロータ方式があり、地形による風の特性に合わせて採用しています。ブレードは11~19回転/分と見た目にはゆっくり回っていますが、回転速度は増速器で約99倍に増速されて発電機に入力されています。原則的には無人運転であらゆる状況に対して自動制御が行われます。

2) 特定公共下水道処理設

ここでは神栖市及び鹿島市の一部の産業排水と生活排水を処理しています。産業排水が90%、残り10%が各家庭からの生活排水です。産業排水は各企業が個別に前処理して特定公共下水道処理設に送られます。集められた排水は生物処理(活性汚泥法)により処理した後、鹿島灘に放流されます。(平成19年度年間汚水処理量は約4600万^mで特定公共下水道としては全国1位の規模です)国内ではここだけという事が行われています。それは下水道の維持管理に要する費用は排水量と水質によって算定する料金制度によって使用者が全額負担しています。水質基準は11段階に分けられていて各企業が排水する水質がよくなるほど料金は安くなるという料金制度になっています。

パートナー霞ヶ浦講座は第4回迄開催しますので今後も多数の参加をお待ちしています。(申し込みについてはセンターから別途連絡されます。)

(パートナー企画部会：栗原)



風力発電設備



波崎海岸沿いの風力発電設備



施設の説明

新聞クリッピングから --- “3分野で「地球の限界」を超える”

今年6月、ブラジルのリオデジャネイロで開かれていた「国連持続可能な開発会議」(リオ+20)は、事前の予想どおり、成果が上げられないまま閉幕した。マスコミの取り上げ方も、“成果に程遠い結果”(読売新聞：平成24年6月24日)、“危機感が足りなかった”(茨城新聞：平成24年6月26日)などの大見出しが多かった。

一連の関連報道の中で、“3分野「地球の限界」超す”と見出しを打ったインタビュー記事が目をついたので紹介する。

ストックホルム大学(スウェーデン)の研究機関、ストックホルム・レジリアンス・センターのヨハン・ロックストロム教授が同会議で発表する予定の「地球の限界」に関する知見内容を事前に伝えるもの(読売新聞、平成24年6月19日)。それによると、かねてから地球環境を維持するためには許容範囲があるとして、①気候変動②生物多様性③窒素循環とリン循環④成層圏のオゾン減少⑤海洋酸性化など、9つの分野の超えてはならない「限界点」の数値化を試みて注目されていた。ところがロ博士によれば、発表時すでに「気候変動」、「生物の多様性の損失速度」、「窒素循環」の3分野で限界点を超えていたという衝撃的な見解。

このところ、“アマゾン流域干上がる?”、“CO2濃度が最高水準”、“40年代に2度上昇も”、“北極にもオゾンホール”などの気候変動がつきつぎと伝えられている。(リオ+20)では、「グリーン経済」への提案がなされているが、今ひとつ「安定的な地球」への努力を最優先すべきだとの警鐘を鳴らす記事となっている。



左が平成24年6月19日付読売新聞の記事

(図書G：細谷)

私の細道

1. 芭蕉庵 (その1)

「奥の細道」によると、「弥生も末の七日」に旅立ちが始まる。元禄2年3月27日は陽暦で1689年5月16日である。芭蕉と曾良は深川から親しい人達と共に舟に乗り、千住で下船した後、見送られつつ旅立った。

退職した頃より、芭蕉の歩いた「奥の細道」を体験したいと云う思いがあった。そして、是非、芭蕉の旅立ちの日に合わせた体験をしたいと思っていた。昨年5月16日、妻と2人、車で深川を出発し、千住を経由して草加まで移動して、芭蕉に関連した史跡を垣間見た。

元禄2年から322年の過客は、時代を変え、道を変え、町を変え、人も変えた。徳川幕府は180年後に崩壊した。江戸は東京と名を変えた。明治・大正・昭和を経て、平成も23年になっている。日清・日露戦争を経験し、太平洋戦争で日本は一度崩壊した。その後65年。日本は見事に復興。東京の街には高層ビルが林立し、東京タワーが出来た。また、この平成23年5月の時点では、高さ634メートルのスカイツリーは建設途中であったが、既に全容を見ることが出来る状態だった。

しかし、この試みの2カ月前である3月11日。東日本大震災。千年に一度と云われる大地震と大津波に、奥の細道は呑みこまれ、無惨にも破壊された。この計画をした時には予想だにできなかった事である。

5月16日。趣味の薔薇の世話が忙しい時期ではあったが、妻は同行してくれた。次男の嫁の妊娠で水天宮に行く必要もあった。阿見の自宅を9時に出発。常磐自動車道から首都高速。少し汗ばむ気候の中、渋滞もあり、11時頃水天宮に到着し、お守りと岩田帯を受けた。

そして深川へ。小名木川の隅田川へ合流する岸边に芭蕉庵史跡展望庭園がある。川沿いの細い脇道に車を止めて周辺を散策した。万年橋通りと小名木川と隅田川に囲まれた三角地帯に、芭蕉稲荷神社、正木稲荷神社そして芭蕉記念館がある。隅田川沿いの遊歩道に奥の細道に掲載されている句が順番に並んでおり、散策する人々を楽しませている。



風薫る大川端の散歩道 俊夫

芭蕉稲荷神社の場所に、延宝8年(1680)から9年間芭蕉庵があったと伝えられており、この間に天和2年(1682)の大火で一度焼失している。正木稲荷神社の門をくぐり、石段を昇ると、石作りの庭園となっており、芭蕉の像がある。若い女性が一人、老人が一人、それぞれ、カメラを抱えて周囲を写していた。「今日は芭蕉が出発の日ですね。」という、二人共にそれを熟知しており、その日に合わせてここに来たのだという。



この辺り一帯、芭蕉の住んでいた頃は、「関東代官頭伊奈半十郎忠篤の地」で、芭蕉庵の所在地は「元番所」と、延宝8年(1680)の古地図にある。この場所は小名木川運河と大川の合流点に当たり、水上交通の要衝で、以前は幕府の船番所があった。伊奈家は、関東の治水土木工事を引き受ける幕府の代官であった。芭蕉が江戸に来て間もない頃(1677)、神田上水の土木工事に従事したのも、伊奈家との関係かもしれぬ。そしてこの地はその後、松平遠江守の下屋敷となる。曰く付きの地であり、芭蕉がこの地から「みちのく」へ出発したからこそ、幕府との関係をいろいろ取り沙汰されているのである。

(パートナー：小松)

阿蘇、九重連山 登山記

平成 24 年 6 月 1 日早朝 Am 3:30 私の所属する登山グループ（穂高倶楽部 代表 堀 衛さん）で今回のツアー参加者 27 名が土浦駅東口を貸切りバスで出発。羽田空港内で朝食の後、早めに荷物を預け Am 6:35 発熊本行 JAL1801 便で無事機上の人となる。羽田空港ではやや曇り空であったが上空の天気は良く、富士山や南アルプスの峰々が眼下に見られ、幸運な山行きの旅立ちとなった。早朝のためか機長の視界説明もなくうつらうつらしている中に熊本空港に到着した。



機内から見た富士山

ここからは今日から 3 日間チャーターした貸切りバスに乗り換え、今日登る阿蘇山の仙酔峡登山口に向かった。

「阿蘇山」(百名山)は、九州のほぼ中央、熊本県の東部に位置する典型的な二重式火山で、「火の国熊本」のシンボルでもある。東西約 18 km、南北約 25 km、周囲約 128 km と世界最大級のスケールを誇る「阿蘇カルデラ」。その中心に百名山の登山対象となっている中央火口丘の「阿蘇五岳」根子岳、最高峰の高岳 (TP1, 592m)、中岳、杵島(キシマ)岳、鳥帽子岳がそびえ、特にカルデラ内には約 5 万人の人が住み、農・畜産業を始めとした経済活動が行われ、鉄道や国道が通じている例は、世界的にも類を見ないようだ。

私たちは中央火口丘北側の天然記念物・ミヤマキリシマの名所として有名な「仙酔峡」を起点に、高岳～中岳～噴火口東縁展望所へ回遊するコースを歩く。登山口に群生するミヤマキリシマは落花寸前だった、が上の方は 5 分咲きでした。整備された登山道の終わり驚見平からの「バカ尾根」と呼ばれる仙酔尾根は溶岩流の塊から成っていて、ゴロゴロした溶岩の間や両側が断崖となっている狭い尾根、ロープを使って登る溶岩壁など約 2 時間の険しいきつい登り、いやはや疲れました。高岳から中岳と草木の無い不毛の山頂だが眺めは雄大だ。下山は中岳噴火口東縁展望所に向かって中岳斜面と火口壁稜線を駆け下りた。後で解ったがこのルートは通行禁止だった。なるほど稜線の下りでは火山ガスが鼻をついて来たが、皆さん無事に下山した。

第 2 日 登山ツアーは、小雨の中を「祖母山」(TP1, 756m)に登る。しかし私と家内、足に不安のある他の 2 人を加えた 4 人は、旧尾平鉱山跡地の登山口でグループと別れ、竹田市内までバスで帰り、郷土歴史資料館と岡城址公園を見学して、今日の泊宿：九重温泉・九重観光ホテルで一行の帰りを待つ。案の定、小雨の中の祖母山は歩行に難渋し、予定を 3 時間もオーバーしてずぶ濡れの雨衣で疲れ切って帰ってきた。

第 3 日 「九重山」(百名山)は、大分県の東部、熊本県境に位置し九州の尾根と云われる山群。主峰は「久住山」(TP1, 787m)、山群を「九重山」、一部の区域は「九重(ココノエ)町」、国立公園名は「阿蘇・くじゅう」と呼び名に気を使っている。山群の人气が全国的になったのは、天然記念物・ミヤマキリシマの大群落と、芹洋子の歌「坊ガツル賛歌」で有名になった「坊ガツル湿原」の存在だ。

私たちは帰りの時間の関係もあり、最も短時間のルート「牧ノ戸峠」(TP1, 330m)から主峰の「久住山」を往復する。登山口は観光客であふれ登山道は数珠つなぎだ。第 1 ピークの沓掛山から久住山を見ると全山ミヤマキリシマでピンクに染まっていた。早目に下山、空港に急ぎ、お土産を買って無事帰路の途についた。



(6/1) 阿蘇山登山



(6/2) 国指定史跡 岡城址見学



(6/3) 九重山登山

(パートナー：有吉)

南イタリア・シチリア島旅行（1）

—日本からナポリまでの移動—

7月10日から9泊10日（飛行機2泊、船1泊、ホテル6泊）の南イタリア・シチリア島旅行へ出かけた。参加者は36名と大変多く、機内は他にいくつかのツアーと重なり満員状態であった。バンコクの空港でトランジット（次の便を待たための一時的滞在）し、機内で1泊して、朝ローマ空港に到着した。すぐにその足で午前中は、コロッセオ、トレビの泉、スペイン広場それにバチカン市国のサンピエトロ寺院などの型どおりのローマ市内観光を終えた。午後からはバスでナポリへ移動、途中でナポリの近くにあるカゼルタ王宮（ナポリ王国当時のスペイン系ブルボン家の宮殿）の観光に立ち寄った。ハードなスケジュール



ナポリ港

のためカゼルタ王宮の観光の頃から、時差や暑さ睡眠不足がたたり疲れもピークに達し、ガイドさんの話を聞きながら、立った状態で一瞬眠気がおそうことがたびたびあった。“ルイ14世の曾孫がナポリ王国の権威を示すためベルサイユ宮殿に匹敵するものということでこの宮殿をつくった。”という内容しか頭に残っていなかった。王宮は長方形の宮殿でその裏にベルサイユ宮殿と似た広大な庭園があったが、閉園時間になり、中には入れなかった。

ナポリの町に入ると、車の洪水とマナーの悪さはあいかわらずだ。二車線道路がいつの間にか三、四車線になっている。最近ローマ時代の港の遺跡が見つかったようで、発掘工事がさらに渋滞に拍車をかけているようだ。イタリア南部（シチリア島含）は、イタリア統一までずっと異民族に支配された国で北部と比べても大変貧しく、失業者も多く、治安や交通マナーも悪い。そのために、ナポリは一般に悪い印象をあたえている。しかし、ゲーテの有名な言葉にあるように「ナポリを見て死ぬ」といったようにすばらしい景観で、しかもピッツアやパスタに代表されるイタリア料理の源流の地だけあって、それらは大変美味しかった。

—カプリ島・青の洞窟—



青の洞窟

カプリ島にある「青の洞窟」の観光だ。ナポリ港からゼットホテル（高速船）に乗り、ローマ時代の皇帝の別荘があり、現在は最大の保養地になっているカプリ島のマリーナグランデ港に行った。1時間くらいで到着し、又、そこから中型のモーターボートに全員乗換えて「青の洞窟」の近くまで30分ほど乗った。ここで、モーターボートから4～5人用の手漕ぎボートに海上で乗り移った。2つのボートは固定されていないため揺れが激しく、移動の際に海に落ちないように皆真剣に行動した。手漕ぎボートに乗り終えると船頭さんは

岩に据えつけられた鎖をたぐるようにして、波が下がった瞬間を見計らい1mくらいの洞窟の穴をめがけて一気に洞窟内に滑り込む。手馴れたものだ。座った姿勢では入り（出）口の岩に顔を打つので全員がイナバウアーの姿勢で入っていく。中へはいると、真っ青で幻想的な穏やかな海が広がっていて、思わず“オー”と声が出た。洞窟内ではあちらこちらで喚起の声が反響していた。午前中の晴れた日が最高に美しいようでまさに今日は最高の条件であった。洞窟を出る際に海が少し荒れてきたのか、高い波で洞窟の出（入り）口を塞いだ状態になった。波の低くなる瞬間を見計らって全員行きと同じ姿勢で無事に帰還した（私の愛用のレンズフードは帰還できなかったが）。



マリーナグランデ港

子供の頃の冒険心が目覚め、そのスリルを楽しんだひとこまだった。帰りのモーターボートの中で、雨が激しく降り出し、船の中からラッキーという言葉がとんでいた。満潮や風の強い日は中止になるが、7月は比較的洞窟に入れる確率は高いようだ。

—ポンペイ遺跡—

カプリ島から再び高速船でナポリに戻った。ナポリ港に近づくにつれ右前方にヴェスーヴィオ火山が目に入って来た。2000年前の大噴火によって3000m位あった



ヴェスーヴィオ山

山が現在 1200m ほどの高さになり、ローマ時代の植民都市ポンペイの人たちは有毒ガスで命を奪われ、町は火山灰で埋めつくされた。自然のエネルギーの強さに改めて驚くばかりだ。19世紀に発掘（現在も発掘中）されるまで静かに眠り続けてきた2千年前のローマ時代のポンペイの町を、今、目の前にするといにしへのロマンを感じさせるがなにか複雑な気持ちにもさせた。硬い石畳の上にローマ時代の馬車の轍が残されていて、なにか親しみを感じた。



フォロ（公共広場）



パン焼き

大変歩きづらいでこぼこした石畳の道路を歩いて公衆浴場、洗濯屋、パン屋、居酒屋、宿屋、娼婦の家などを見て歩いた。当時の生活ぶりは、基本的な人間の営みとしてはそれほど大きく現在と変わっていないものだと実感した。

夕方、ナポリ港からフェリーに乗り、明日は初めてのシチリア島への上陸だ。

（パートナー：平江）

デジタルカメラ（その7） ズームレンズの利点・弱点

○ズームレンズってどんなレンズ

ズームレンズは初心者の方を中心に、一眼レフ用レンズの中でも最も使われているレンズです。ズームレンズとは一定の範囲内で焦点距離を可変することにより、写せる範囲を変えることができるレンズです。

一眼レフカメラ以外に、一般的なコンパクトデジカメでも3倍ズームや10倍ズームなど、焦点距離が可変出来るレンズが採用されています。

○ズームレンズの利点・弱点

ズームレンズの利点といえば、なんといってもその使い勝手ですね。レンズによって倍率は違うものの、例えば10倍ズームレンズを装着してしまえば、広角撮影から超望遠撮影までレンズ一本あればOKなわけですから、こんな便利なレンズは無いでしょう。

わざわざレンズ交換する手間もいらなくて、何本も交換レンズを持っていかなくてもいいわけですし、機動性にも優れます。一本のレンズでいろいろな表現が手軽にできるため、初心者むけに最初の一本として、なくてはならないレンズだと思います。

さてズームレンズは無敵なレンズに見えますが実はズームレンズにも大きな弱点もあります。

まずはその複雑なレンズ構成ゆえに、設計上どうしても暗いレンズになってしまいます。暗いレンズは暗い場所での撮影が苦手で、手ぶれしやすくなったり、どうしてもISO感度を上げざるを得ない状況が出てきます。

またレンズの枚数も多くなるため、重くなります。特に倍率が5倍を超える高倍率ズームレンズではその傾向が大きくなります。

それから複雑なレンズ構成になればなるほど、ひずみやゆがみ、像のずれなどを補正するのが難しくなるため、短焦点レンズに比べて表現力の面で劣ってしまいます。

○ズームレンズの種類

一般にズームレンズと言っても、種類は様々です。用途に合ったズームレンズを紹介します。

・広角ズームレンズ

広角レンズとは、一般的に焦点距離が28mm（35mm換算）以下のことをいい、広角ズームレンズはおおよそ28mm前後の焦点距離で可変できるレンズのことをいいます。初心者の方にはあまりなじみのないレンズと思われがちですが、その広い画角で、ダイナミックな撮影ができるのが人気です。

・標準ズームレンズ

最も普及しているズームレンズで、一般的に焦点距離が50mm（35mm換算）を中心に可変できるレンズのことをいいます。入門向け一眼レフのキットレンズにも良く使われるレンズで、18～55mmという一般的なキットレンズもこの標準ズームレンズに含まれます。

コンパクトデジカメの3倍ズームとよく似た画角なので、一般的に使う様々なシーンに対応できるレンズです。

・望遠ズームレンズ

望遠レンズの定義は決められていませんが、一般的には標準レンズ 50mmより焦点距離が長いところで可変できるレンズのことをいいます。

焦点距離が 200mmまでのものならば、入門向けのお値打ちレンズもありますが、300mm、500mmと望遠域が大きくなるにつれて価格も高くなります。望遠レンズは単焦点望遠レンズに比べ開放 F 値が暗くなりがちになります。

超望遠レンズは、屋外での野鳥、運動会、競技などの撮影のほか、月などの天体観測にも威力を発揮します。価格は高めです。

・高倍率ズームレンズ

最後に広角から望遠まで幅広い焦点距離を一本でカバーできる、いわゆる倍率が大きいレンズのことを高倍率ズームレンズといいます。

レンズメーカーから発売されているものが多く、18~270mmが一本でカバーできる超倍率のレンズも人気があります。

このタイプのレンズは重くなったり、暗いレンズになりがちです。

(パートナー：目次)

【編集部よりお詫び】

前28号5ページに掲載した[ご近所探訪(8)旧水戸街道中貫宿と稲吉宿本陣]で稲吉宿旅館「皆川屋」の写真が間違っておりました。正しくは右に掲載した写真です。関係者の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。

お詫びして訂正いたします。



「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

香澄編集部では「香澄」に掲載する原稿を常時募集しています。内容は問いません。センターでの活動の様子や、趣味その他なんでも結構です。写真も大歓迎です。原稿はパートナー室のメールボックスに投函していただくか、編集委員に直接お渡しください。

(パートナー情報誌「香澄」編集部会)

【編集後記】現役引退直後に買ったデスクトップ型パソコンの使い勝手が悪くなって、1か月前最新型のパソコンに買い換えました。ずらりと並ぶ一体型のパソコンを、たまたま帰省していた二男と品定め、結局一番安いGATEWAYのディスプレイ一体型に決めました。ややこしい設定やインストールは二男任せ。アプリは最小限にし、軽快な動作を優先しました。さて Windows7 の実力は、Offis2010 の操作具合はといろいろ試みましたが、何やら違和感ばかりで、サービス過剰のアプリに持て余し気味。1ヶ月使った結論は、“NTで十分”でした。処理速度は速くなりましたが、これは化け物みたいに巨大な容量を持つメモリーのお蔭。これとて、セキュリティやエラー処理のソフトを付加していくにつれてだんだん遅くなり、「やや処理速度は遅くなりますが、正常の範囲です」と居直るしまつ。頻発する“ダンマリ”も大いに不満です。NTの穏やかな動きに郷愁を覚える状態です。Windows 7と支障なく付き合えるようになるのは、まだまだ先のようにです。(H)